(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2019-182477
(P2019-182477A)
(43)公開日　令和1年10月24日(2019.10.24)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
B65D 6/04	(2006.01)	B65D	6/04	3E061

審査請求 未請求　請求項の数 2　ＯＬ　（全 5 頁）

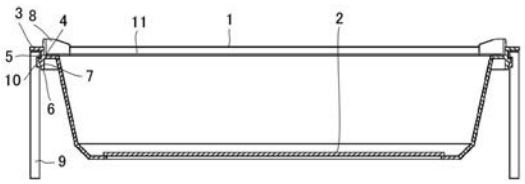
(21)出願番号　特願2018-74877(P2018-74877)
(22)出願日　平成30年4月9日(2018.4.9)

(71)出願人　000145231
株式会社アクタ
福岡県福岡市博多区吉塚５丁目８番１１号
(74)代理人　110001601
特許業務法人英和特許事務所
(72)発明者　柴田　伊智郎
福岡県福岡市博多区吉塚５丁目８番１１号
株式会社アクタ内

Ｆターム(参考)　3E061 AA02　AB18　CA01　DB11

(54)【発明の名称】食品包装用容器

(57)【要約】　（修正有）
【課題】段部が浅くても容器本体と枠体を確実に組み立てられること及びずれ落ち防止用の突出部を設けても密封用フィルムを固着できるようにすること。
【解決手段】容器本体１と枠体９を備える食品包装用容器であって、容器本体１の周縁部３には段部４、段部４の外側壁５には垂下部６、外側壁５の四隅にはＬ字状の突出部８、垂下部６の外側面には係合凸部７が設けられている。また、枠体９の上方内面には係合凹部１０が設けられ、枠体９に容器本体１を被せると係合凸部７が係合凹部１０と係合する。使用に際しては、食品を収容した後、段部４の上面に密封用フィルム１１を固着して、食品収納用凹部２の開口部を塞ぐ。
【選択図】図４



【特許請求の範囲】
【請求項１】
容器本体と、該容器本体を収容する枠体と、前記容器本体に設けられた係合凸部と、前記枠体に設けられた係合凹部とを備える食品包装用容器であって、
前記容器本体の周縁部の内側に段部を設けるとともに、該段部の外側壁から下方に延びる垂下部を設け、
前記係合凸部を、前記垂下部の外側面に設けてある
ことを特徴とする食品包装用容器。
【請求項２】
前記外側壁の複数箇所から上方に延びる突出部を備えている
ことを特徴とする請求項１に記載の食品包装用容器。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、主として、各種惣菜、ごはん類、麺類、菓子類等の食品を収納するための食品包装用容器に関する。
【背景技術】
【０００２】
このような食品包装用容器として、容器本体と枠体を組み合わせたものが広く用いられている。
例えば、本出願の発明者は、特許文献１（特許第３９６５３２１号公報）に記載されているように、直方体状とした枠体(1)の上から容器本体(10)を落とし込み、容器本体(10)の側壁部(12)に設けられた係合凸部(15)と枠体(1)の上方内面に設けられた係合凹部(8)とを係合させて、容器本体(10)と枠体(1)とが容易に分離しないようにした食品収納用簡易容器を提案している（特に、段落００２３～００２５及び図９を参照）。
【０００３】
また、特許文献２（実開昭５５－１８４４４号公報）には、容器(1)の周縁に内側上段リップ(2)及び外側上段リップ(3)を設け、内側上段リップ(2)を熱収縮性フィルム(6)の接着面とした密封容器が開示されている（特に、請求項１及び第１図を参照）。
【０００４】
そして、本出願の発明者は、食品収納用簡易容器を密封容器とするため、食品収納用簡易容器の周縁部の内側に、特許文献２のように段部を設け、段部の上面に密封用フィルムを固着できるようにする改良を試みた。
しかし、特許文献１の食品収納用簡易容器に段部を設けた場合、容器本体(10)と枠体(1)とが容易に分離しないようにするためには、段部を深くして段部の外側壁に係合凸部(15)を設けるとともに、係合凸部(15)の上部に係合凹部(8)と係合できるようにするためのスペースを確保する必要があり、容器高さの割に食品収容部の容積が小さくなってしまうことが分かった。
なお、枠体(1)の係合凹部(8)を枠体(1)の上縁近くに設ければ、確保すべきスペースが小さくなり、段部をある程度は浅くできるが、そうした場合、枠体(1)の上縁付近の内側が壊れ易くなるので、係合凹部(8)と係合凸部(15)とをしっかり係合させられなくなるトラブルが発生し易い。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】特許第３９６５３２１号公報
【特許文献２】実開昭５５－１８４４４号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】

本発明は、食品収納用簡易容器に密封用フィルムを固着できるようにするための段部を設けた場合における上記の問題を解決するため、段部を浅くしても、段部の外側に係合凸部を設けて、枠体の係合凹部としっかり係合できるようにすることを第１の課題としてなされたものである。

また、本発明は、複数の食品包装用容器を積み重ねたときに、食品包装用容器がずれ落ちないようにするための突出部を容器本体に設けた場合でも、密封用フィルムを固着できるようにすることを第２の課題としてなされたものである。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

請求項１に係る発明の食品包装用容器は、容器本体と、該容器本体を収容する枠体と、前記容器本体に設けられた係合凸部と、前記枠体に設けられた係合凹部とを備える食品包装用容器であって、

前記容器本体の周縁部の内側に段部を設けるとともに、該段部の外側壁から下方に延びる垂下部を設け、

前記係合凸部を、前記垂下部の外側面に設けてあることを特徴とする。

【０００８】

請求項２に係る発明の食品包装用容器は、請求項１に記載の食品包装用容器において、前記外側壁の複数箇所から上方に延びる突出部を備えていることを特徴とする。

【発明の効果】

【０００９】

請求項１に係る発明の食品包装用容器は、容器本体の周縁部の内側に段部を設けるとともに、段部の外側壁から下方に延びる垂下部を設け、係合凸部を垂下部の外側面に設けてあるので、段部を浅くしても係合凸部の上部に係合凹部と係合できるようにするためのスペースを十分確保でき、係合凸部と係合凹部とをしっかり係合させることができる。

また、段部を浅くすることができるので、食品収容部の容積が小さくなってしまうことを避けることができ、段部の上面に密封用フィルムを固着することができるので、容器本体に収容した食品等を長時間良好な状態に保つことができる。

【００１０】

請求項２に係る発明によれば、請求項１に係る発明の食品包装用容器による効果に加えて、容器本体に外側壁の複数箇所から上方に延びる突出部を備えているので、複数の食品包装用容器を積み重ねたときに食品包装用容器がずれ落ちることがない。

そして、そのような突出部を設けた場合においても、段部の上面に密封用フィルムを固着することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１１】

【図１】実施例に係る食品包装用容器の平面図。

【図２】実施例に係る容器本体のＡ－Ａ線断面図。

【図３】実施例に係る容器本体を下方から見た斜視図。

【図４】実施例に係る食品包装用容器のＡ－Ａ線断面図。

【発明を実施するための形態】

【００１２】

以下、実施例によって本発明の実施形態を説明する。

【実施例】

【００１３】

図１は実施例に係る食品包装用容器の平面図であり、図２は実施例に係る容器本体のＡ－Ａ線断面図、図３は実施例に係る容器本体を下方から見た斜視図である。

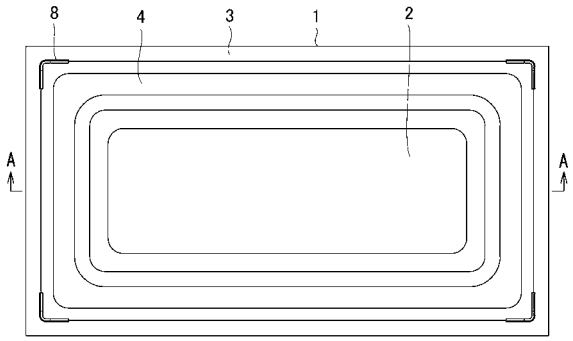
図１～３に示すとおり、実施例に係る食品包装用容器の容器本体１は、薄いプラスチック製で一体成形により作製され、平面視が長方形状の食品収納用凹部２を有し、周縁部３の内側に段部４が設けてある。

また、段部４の外側壁５には、下方に延びる垂下部６が設けられ、垂下部６の外側面に

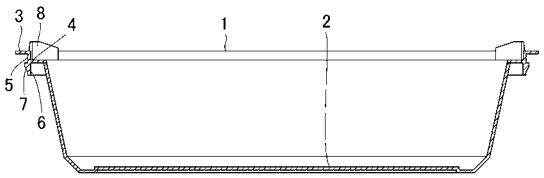
断面が台形状で下部がテーパ状になっている係合凸部７が設けてある。
さらに、段部４の外側壁５の四隅には、上方に延びるＬ字状の突出部８が設けてある。
【００１４】
図４は実施例に係る食品包装用容器のＡ－Ａ線断面図である。
図４に示すとおり、実施例に係る食品包装用容器は、容器本体１と枠体９を備えており、枠体９の上方内面には係合凹部１０が設けてある。
なお、枠体９は発泡プラスチック製の板４枚を環状に接続して形成され、全体の形状は直方体状である。
そして、実施例に係る食品包装用容器を組み立てるに際しては、枠体９の上方から容器本体１を被せると、係合凸部７のテーパ面によって枠体９の上部が押し広げられ、垂下部６及び外側壁５が枠体９の内側に嵌まり込み、係合凸部７が係合凹部１０と係合して、容器本体１と枠体１０とが容易には分離しない状態となる。
【００１５】
このようにして組み立てられた食品包装用容器を使用する際には、食品収納用凹部２に各種惣菜、ごはん類、麺類、菓子類等の食品を収容した後、段部４の上面に密封用フィルム１１を固着して、食品収納用凹部２の開口部を塞ぐ。
なお、密封用フィルム１１を固着するための手段としては、熱融着、圧着、接着等適宜の手段を選択することができる。
【００１６】
食品を収容し、段部４の上面に密封用フィルム１１を固着した食品包装用容器を積み重ねるに際しては、下側の容器本体１の周縁部３に上側の枠体９を載置すれば良い。
そのようにして食品包装用容器を積み重ねると、下側の容器本体１の四隅に設けてあるＬ字状の突出部８が上側の枠体９の内面に接触するので、積み重ねた食品包装用容器がずれ落ちることがない。
また、密封用フィルム１１は容器本体１の周縁部３より低い位置に固着されているので、複数の食品包装用容器を積み重ねても、上側の食品包装用容器の底部が下側の食品包装用容器に固着されている密封用フィルム１１に触れることがなく、密封用フィルム１１が破れたり汚れたりするおそれがない。
【００１７】
実施例の変形例を列記する。
（１）実施例に係る食品包装用容器においては、段部４の外側壁５の四隅にＬ字状の突出部８を設けたが、突出部８は設けなくても良い。
（２）実施例に係る食品包装用容器においては、段部４の外側壁５の四隅にＬ字状の突出部８を設けたが、突出部８はＬ字状でなくても良く、棒状や板状としても良い。
（３）実施例に係る食品包装用容器においては、段部４の外側壁５の四隅にＬ字状の突出部８を設けたが、突出部８は四隅に設けなくても良く、対角線上にある二つの隅部、三つの隅部又は二つ以上の適宜の箇所等、外側壁５の複数箇所から上方に延びる適宜の形状の突出部を設ければ、積み重ねた食品包装用容器のずれ落ちを防止することが可能である。
【００１８】
（４）実施例に係る食品包装用容器は、平面視が長方形状で枠体９の形状は直方体状であったが、平面視は長方形状に限らず、多角形状、円形状、楕円形状等どのような形状でも良い。
（５）実施例に係る食品包装用容器の枠体９は、発泡プラスチック製の板４枚を環状に接続したものであったが、材質は発泡プラスチックに限らず、硬質プラスチック、木、紙又は金属等であっても良く、特許文献１に記載されている枠体(1)と同様に、折り畳めるようにしても良い。
また、枠体９は、平板を接続したものに限らず、容器本体１を収容でき係合凸部７が係合できる形状に成型したものとしても良い。
【符号の説明】
【００１９】

１　容器本体　　２　食品収納用凹部　　３　周縁部　　４　段部
５　外側壁　　６　垂下部　　７　係合凸部　　８　突出部
９　枠体　　１０　係合凹部　　１１　密封用フィルム

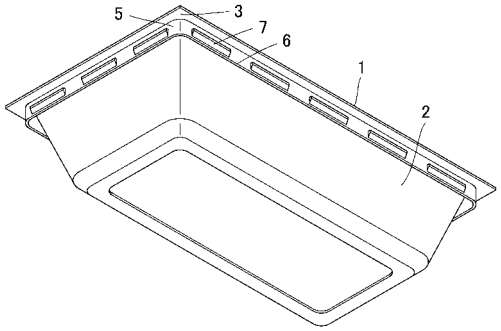
【図１】



【図２】



【図３】



【図４】

